

Campus News

【キャンパスニュース】

2025. 1 Vol.65

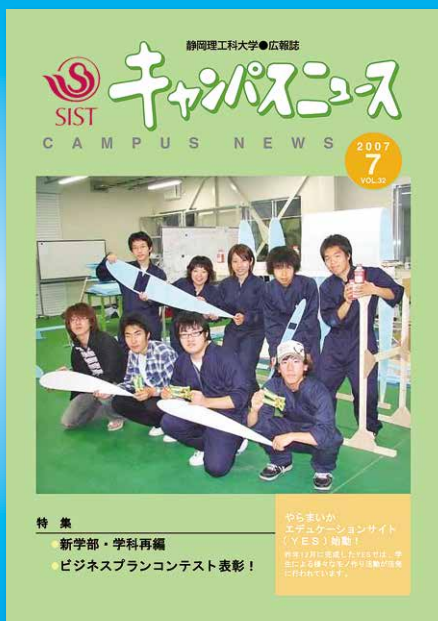
はじまりを、つくる

【特集】

● キャンパスニュースリニューアル記念
アーカイブ特集



キャンパスニュースリニューアルしました!



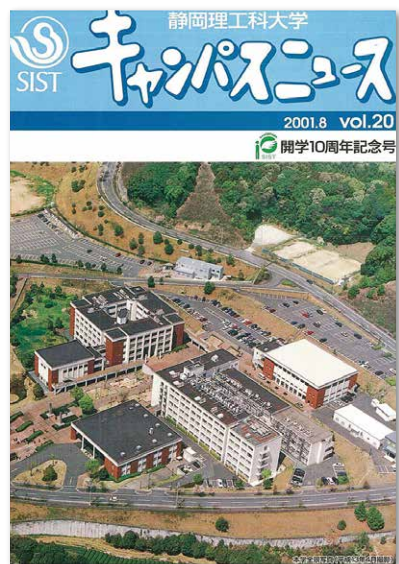
特集 キャンパスニュースリニューアル記念 ★アーカイブ特集★こんな時代もありました

『紙だからこそ味わえる「古いアルバムをめくる時のような気持ち」を大切にしたい』。
そんな気持ちから、この度キャンパスニュースをフルカラーのタブロイド判でリニューアル
しました。

今回はリニューアル特集ということで、過去の記事を振り返ってみました。



▲2000年1月号 vol.17
まだ愛野駅という名前が付けられる前の記事です。



▲2001年8月号 vol.20



▲開学以降、キャンパス風景も移り変わり、
新たな歴史が刻まれています。

本号の特集では2000年頃(約25年前)の記事を振り返ってみました。今から25年前
の記事ですから、このキャンパスニュースが発刊された頃には、今年成人を迎えた学生
は誕生すらしていないということになります。そう考えると、読みながら月日の流れる速さに
溜息が出た方もいらっしゃるのではないのでしょうか。



▲2000年7月号 vol.18



▲2001年8月号 vol.20

静岡理科大学では大学主催
の卒業式だけではなく、市民の手
による「卒業生を送る会(袋井商工
会議所主催)」が開催されていました。
卒業生は袋井市民の皆様から
卒業をお祝いいただき、当日は
近隣にお住まいの市民の皆様
の他、アルバイト先の社長さんなど
にも参加いただいております。

* リニューアル記念 * 読者アンケート&プレゼント

キャンパスニュースに関するアンケートにお答えいただくと、
抽選で10名に記念品が当たります。
なお抽選結果は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

応募方法

応募フォームから
アンケート項目に回答ください。▶
【回答期限:5月31日】



遠州灘

スリランカのジェフリー・バワという建築家は、ホテル建築の第一人者としてよく知られている。リゾートホテルのプールで、水面のエッジがそのまま海や湖に連続するような「インフィニティ・プール」は知っているだろう。その最初の設計者である。自身の研究テーマで参考にするべき点も多いと感じ、10年近く訪問の機会を伺っていたが、この夏ようやく行くことができた。
想像以上だった。スリランカは岩盤の島で、多様な宗教も混ざり合っているが、自然を崇拝するアニミズム色が強い。隆起する岩盤に建築は同化される。山裾のジャングルが建築を覆い、姿を見せない。そこにはリゾートホテルという華やかな快楽のイメージと対極な、自然や宇宙への畏敬の念が見事に空間化されていた。成功したホテル建築の本質は、商業主義に根ざしているわけではなく、人が信じるべき地球の摂理への謙虚な姿勢であると知り、安心するのだった。(T)

授業の紹介

生命化学実験1は、物質生命科学科3年生のバイオ食品科学コースの必修科目です。

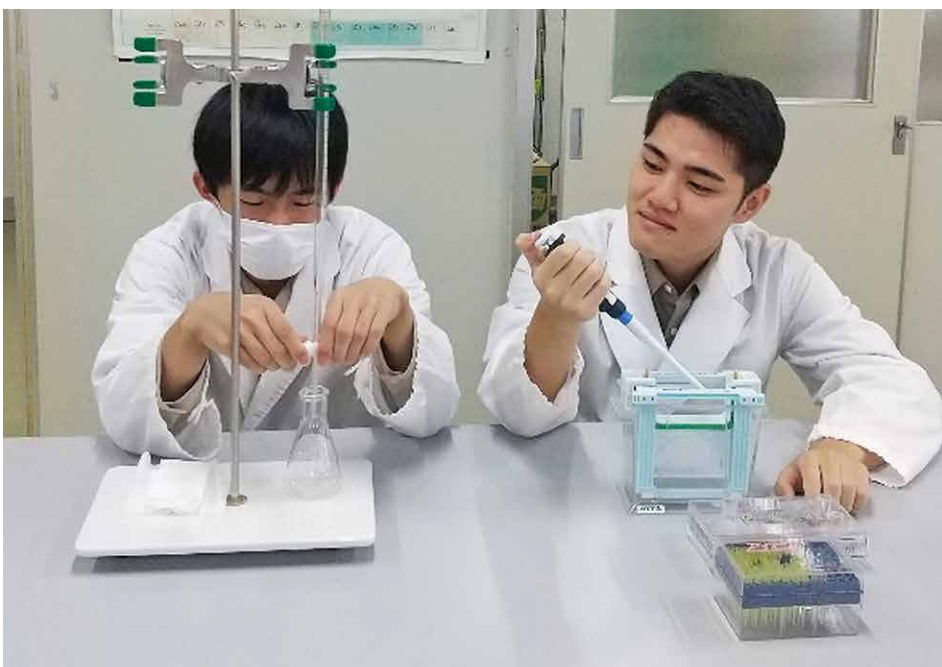
生物の生体構成成分であり、主要な食品成分でもあるタンパク質、糖質および脂質を取り上げ、これらの分離および定量に関する基本的な実験技術を習得することを目的としています。

さらに、本実験では、これまで学んできた生化学、有機化学および食品関連分野の知識を生かして、学生自ら実験課題を設定し、問題解決に取り組めるような問題解決型実験を行う時間も設けており、応用力を身につけることも目指しています。

グループごとに限られた時間の中でできる課題を話し合っ決定し、実験した結果をまとめ、最終回では各グループが問題解決型実験の発表を行います。毎回、グループごとにユニークな課題が提案され、発表会では目覚ましい成長ぶりが感じられます。

■ 生命化学実験1

担当：物質生命科学科 教授 宮地竜郎
物質生命科学科 教授 吉川尚子 他



おじゃまして。

地球環境・リモートセンシング研究室(土木工学科)

研究室訪問
第53回



当研究室では気候変動や都市化など幅広い環境問題を研究しています。人工衛星リモートセンシングデータ分析を用いた都市計画や防災計画に主眼をおいています。さらに、環境影響評価をもとに、自然災害のリスクマネジメントにも取り組んでいます。

人工衛星画像を用いたリモートセンシングは、地球環境における人間活動の影響を大小様々なスケールで可視化するのに大変有効な手法の一つです。また、近年、日本をはじめ各国では人工衛星の打ち上げも活発になっており、地球環境のリモートセンシングは今後も注目される研究分野です。

研究室学生からひとこと

古賀 涼介 さん(理工学部 土木工学科 3年)



本研究室では、地球温暖化の与える諸影響や緑地化による地球温暖化抑制について研究を行っております。研究室配属が決まったばかりで活動は限られていますが、週に一度、それぞれが調べたことや学んだことを発表し、知識を高めています。

また、本研究室の1つの特徴は人工衛星データを用いることです。これによりマクロな視点から地球を見ることができます。研究室の活動を通じて、人工衛星データの使い方も自然と身に付けることが出来ており充実しています。

研究室担当教員

Mahapatra Kedarnath 先生
(マハパトラ ケダーナッシュ)

プロフィール

インド・オリッサ州出身
1985年……………インド・オリッサ州立バラハンプール大学大学院
博士課程前期修了
1987年～1996年……………インド・オリッサ州・応用リモートセンシング研究所研究員
1996年……………水産庁遠洋水産研究所研究員
1998年……………東海大学にて博士取得
1998年～2023年……………東海大学非常勤講師
2000年～2023年……………(株)アース・ウェザー(民間気象会社)研究員
2023年～……………静岡理工科大学理工学部土木工学科教授

研究者に
聞きました

先生、どうして研究者になったの？

このコーナーは、静岡理工科大学で働く先生がどんな人なのか、研究者の道に進んだ理由、どんな研究をしているかなどを紹介していきます。

今回は理工学部 電気電子工学科の本良瑞樹先生にお話を聞きました。



【氏名】 本良 瑞樹(もとよし みづき)

【研究室名】 ワイヤレス情報通信研究室

【所属職位】 理工学部 電気電子工学科 教授

【生年】 1982年生まれ

【出身地】 東京都町田市出身

【簡単な経歴】 東京大学博士課程を修了後、広島大学・東北大学を経て、2021年に本学に着任。

【趣味】 日曜大工、自転車/バイク、道路地図を読む

【座右の銘】 やってみせ、言ってみせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ

幼少期の「なぜ？」が研究者への第一歩

みなさんにとって“電話”はスマホですか？ガラケーですか？5G(第5世代)ですか？それとも、固定電話ですか？

今は大多数の人が持っているスマホ(スマートフォン)ですが、私が小学生の頃、電話と言えば家ではコード付電話、街中では公衆電話でした。アニメサザエさんのように廊下に黒電話があった訳ではありませんが、電話は「動かないモノ」でした。いつの間にか家の電話に子機がつき、家の外では「携帯電話」が目につくようになりました。

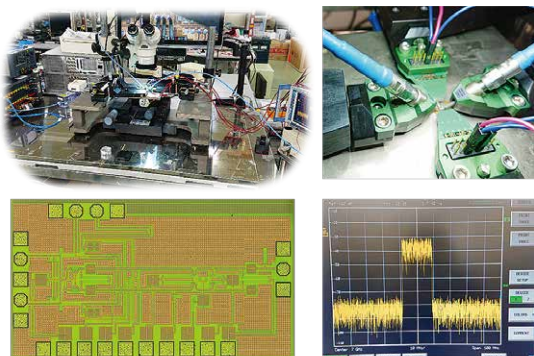
写真や動画が撮れ、インターネット経由で情報が得られ、SNSなどで情報が発信できる、それらはスマホがあれば当たり前のようにできますが、第1世代携帯電話の登場は私が小学生の頃、スマホが大学院生の頃なのでわずか25年ほどの出来事です。

「なぜ街中何処でも使えるのだろう?」「文字や写真が送れるのはなぜだろう?」「なぜ毎年出来ることが増えていくのだろう?」など、毎年のように高性能になっていく身近な存在でもあった携帯電話の不思議に興味があり、電気電子工学科に進学し、研究室配属で“無線通信”の分野に足を踏み入れました。

小さい頃の「なぜ?」を学部・大学院時考えてみたいと思ったのが研究者への道のスタートでした。大学院での研究テーマは、その全てではありませんが極一部が今の5Gに実装され、これから先のまだ見ぬ6G/7Gに採用されていく可能性が十二分にあります。そんな、社会への貢献も研究の楽しみであり、研究者になってよかったと思っています。



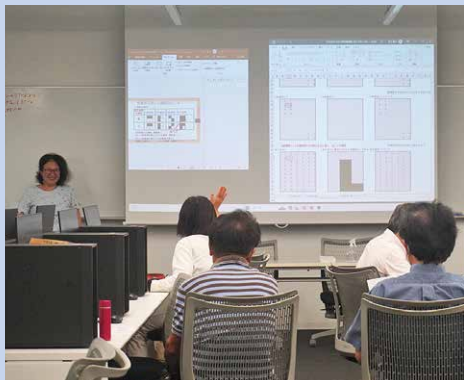
▲令和6年度高柳研究奨励賞(公益財団法人浜松電子工学奨励会)を受賞しました。



▲6Gに向けた無線通信用高周波集積回路および測定風景

袋井市共催 市民体験入学

昨年8月24日(土)、本学にて市民体験入学を開催しました。全体講座では気象予報士・防災士の木原実氏に、『「天と地と」自然災害に備える』をテーマにご講演いただき、当日は141名の参加者に来学いただきました。選択講座では、体験講座6つ、座学講座2つの計8講座を実施し、受講者はそれぞれ希望する講座へ参加しました。



ひらめき☆ときめきサイエンス

理科実験教室イベント「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催しました。この事業は、小学5年生～高校生を対象に、大学や研究機関で行われている最先端の研究成果を、直に見る、聞く、触れることで、科学のおもしろさを感じてもらう日本学術振興会の助成により実施しているプログラムです。今年は小中学生向けに合計4件のプログラムが開催され、本学の教員と学生が講師となり、多くの参加者に本学で取り組まれている研究を体感していただきました。



開催日	テーマ	講師
10月5日(土)	走れ化学ロボット! いきものように走る油滴をつくろう2024	物質生命科学科 教授 南 勉
11月2日(土)	抗菌・抗ウイルスグッズを作ってみよう! ～天然由来の染料および香料の再利用～	物質生命科学科 准教授 鎌田 昂
11月2日(土)	温度や光で変身! 不思議なプラスチックに触れてみよう	物質生命科学科 准教授 小土橋 陽平
11月9日(土)	超伝導体の性質を調べ、いろんな材料の結晶構造を作ってみよう! (静岡駅前キャンパスで開催)	総合技術研究所 客員教授 喜多 隆介

地域学 今年のテーマは「ふるさと納税」

昨年10月8日(火)、本学にて「地域学」の表彰式を行いました。「地域学」は袋井市との包括連携協定の取り組みの一環として、袋井市のまちづくりについて考える講座となります。参加した学生が4～5人のグループに分かれ、市の若手職員と共に市の特徴を活かした具体的な政策を提言します。本年度は「ふるさと納税を活用して袋井市の魅力を伝えよう」をテーマに実施しました。最優秀の市長賞には、小中学生向けのプログラミング体験講座を返礼品にする「大学の体験講座を返礼品に」が選定され、大場市長から「実現可能性の高いものと感じた」とメッセージをいただきました。



大学祭SISTIVAL

昨年10月26日(土)から27日(日)にかけて、大学祭実行委員会主催の大学祭SISTIVALを開催しました。大学祭には2日間で約1300名が来場され、多くの一般市民の方に大学祭をお楽しみいただきました。当日は学生サークルなどの団体が、体験ブースやライブ等を行ったほか、近隣企業による「物産展」を同時開催しました。また27日(日)にはお笑い芸人「四千頭身」による爆笑ライブが開催され、会場は大いに盛り上がりしました。



防災教育センター主催「まちあるきで学ぶ防災」3連発

昨年11月10日(日)に掛川市、11月17日(日)に伊豆の国市、11月23日(土)に富士市を舞台に、防災ワークショップ「まちあるきで学ぶ防災」を開催しました。掛川市では高校生を対象に、伊豆の国市と富士市では一般市民を対象に、参加者延べ42名とまちあるきを通じた防災教育活動を行いました。本学防災教育センターの中澤センター長(土木工学科 教授)が講師を務め、防災・減災への意識の向上を目標に、まちを歩きながら道路の状況を観察したり、ため池などの役割を考えるワークショップを開催しました。



開催日	開催地	参加者
11月10日(日)	掛川市	高校生 11名
11月17日(日)	伊豆の国市	市民 12名
11月23日(土)	富士市	市民 19名

地域創成フォーラム

昨年11月12日(火)、ホテルクラウンパレス浜松で、令和6年度地域創成フォーラムを開催しました。第1部の特別講演では、山形大学 学術研究院 教授の小野浩幸氏をお招きし「地域からイノベーションを起こす産官学金連携の仕組み」をテーマに講演をしていただきました。また、本学教員による研究活動紹介、本学教員と参加者が意見交換・情報交換をする「ブース展示」が実施され、地域企業の皆さまと交流の場となりました。



令和6年度 第2回公開講座(開催:静岡駅前キャンパス)

11月23日(土)、「静岡とデータサイエンス 静岡の故きを温ねて新しきを知る」をテーマに、静岡駅前キャンパスで公開講座を開催しました。第一部では「フィールド調査から見る静岡方言～井川方言の変化と継承」のテーマで情報デザイン学科の谷口ジョイ教授が、第二部では「数字いじり≠データサイエンス ～静岡市の人口急減はなぜ?～」のテーマでコンピュータシステム学科の山岸祐己准教授が講演を行いました。当日は61名が参加し、「静岡市を題材に、多面的な話題提供をいただき非常に興味深かったです」などの感想をいただきました。



冬休み体験研究室in藤枝

昨年12月22日(日)、藤枝市生涯学習センターで、小学生を対象に「冬休み体験研究室in藤枝」を開催しました。当日は82名の小学生が参加し、大学生と共に「身近にあるものを使って楽しく実験しながら、モノの仕組みを学んでみよう」をコンセプトに8つのプログラムを実施しました。参加した小学生は、模型飛行機の制作やお湯を使った発電機などのプログラムから1つを選択し、「どうしてそうなるのか」を考えながらモノづくりに取り組みました。



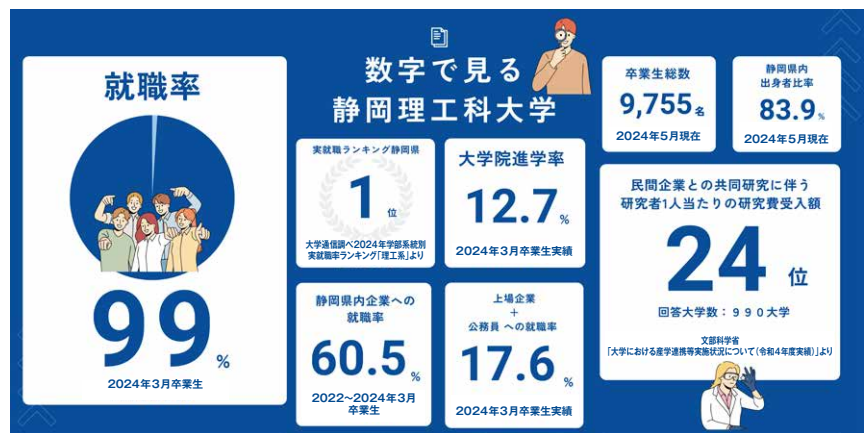
入試広報NEWS

■数字で見る静岡理科大学！

静岡理科大学の強みである就職率や研究の充実度をはじめ、在学生の状況や学びの成果を数字でわかりやすく紹介します。静岡理科大学の魅力を右のデータで体感してください！

▶もっと詳しく知りたい方は、 静岡理科大学の公式Instagramをチェック！

最新のイベント情報や学生の活躍、キャンパスの様子を随時お届けしています！ぜひフォローして、大学の魅力をリアルタイムで感じてください！



スポットライト がんばる理工科大生

矢板橋 芳生 さん(情報学部 情報デザイン学科 4年)

今から50年以上前に、国立国語研究所が、全国各地の方言を調査し、地図上に表したものの(日本言語地図)があります。私は、当時の調査項目である「スズメの呼称および鳴き声」に着目し、現在の使用・理解の状況を調査しています。昨夏、東北方言話者を対象とした大規模調査を実施しました。これらの方言がどのように変化しているのか、その要因は何か、という点を明らかにしたいと思います。

現在は、インターネット会議システムを用いて、話者の方にインタビューを行い、東北方言の音声的な特徴(母音やアクセント)がスズメの呼称に関わっている可能性について検討しています。どれほど調べても新たな発見があり、研究がとてもおもしろいです。研究室では、言語学の基礎を学ぶとともに、フィールドワークを通じて危機言語・方言を残す重要性を学びました。また、データサイエンスの手法を用いて、高度なデータ分析を行っており、情報学部ならではの卒業研究に取り組んでいると思います。

今後は、東北方言についてさらに知るために現地調査を行い、地域の歴史や文化といった視点も交えて研究を進めたいと考えています。



▲2024年12月、八丈島で開催された「危機的な状況にある言語・方言サミット」では、井川地区(静岡県静岡市)の方言についても研究成果を発表しました。



同窓会 だより

■第22回同窓会ホームカミングデーを開催しました！

昨年10月27日(日)に、同窓会ホームカミングデーを開催しました。

当日は多くの同窓生が参加され、大いに盛り上がったホームカミングデーとなりました。

今後も同窓生のネットワークが充実するよう、イベント等の開催に努めてまいりたいと思いますので、引き続き同窓会活動にご理解とご協力の程、宜しくお願いします。



■静岡理科大学同窓会30周年記念行事を開催します！

本年、静岡理科大学同窓会は、発足から30周年の節目の年を迎えます。30周年を迎えるにあたり、同窓生の皆様に日頃の敬意と感謝をお伝えするべく、記念行事の開催を検討しております。

記念行事に関する情報は、同窓会公式LINE@等にて先行して情報発信しますので、皆さん【友だち登録】をお願いします！



同窓会30周年記念イベントは
2025年冬頃の開催に向け
検討中です!!

後援会 だより

■保護者懇談会の開催

昨年10月26日(土)に「保護者懇談会」を開催いたしました。全体会では服部後援会長より御挨拶をいただき、後援会の活動状況及び、今年度のキャンパス内環境整備と計画についての報告がありました。

加えて、本懇談会では、日本学生支援機構スカラシップアドバイザーの久米啓子氏をお招きして「保護者と学生がともに知っておきたい奨学金制度(日本学生支援機構)について」と題したご講演をいただきました。修学にかかる費用の説明から始まり、日本学生支援機構奨学金の制度や利用方法について、丁寧に説明していただき、来場された方々も熱心に耳を傾けていました。

また、希望された方に対して懇談会終了後に助言教員との個別面談を行い、修学状況や就職活動状況、学生生活等について助言教員と直接相談ができる貴重な機会となりました。



▲全体会における木村学長の大学紹介

活躍する卒業生

アルプスアルパイン株式会社
いわき開発センター
サウンド設計部

藺部 健 さん
(電気電子工学科 23期卒業生)



電気電子工学科の武岡研究室でスピーカアレイの研究に取り組んでいました。バンド活動やPA(Public Address)を通じて音に興味があり、奏者やオペレータのノウハウではなく機材など技術的な方面からどうにかできないか?と考えたのが音の研究を始めたきっかけでした。

現在は音響製品の研究開発や先行開発に携わっており、やりたいことをやらせてもらえる、チャレンジする風土がある職場です。ビジネスにつながる新しい価値を創出しようと常日頃から頭を悩ませているのですが、面白いことを思いついた時に、チャレンジしてみよう!と一歩を踏み出すことは、とても勇気がいることだと感じています。なぜなら新しいことに挑戦するときは、わからないことだらけでたくさんのことを考え学びながら進むことになるからです。それらを乗り越えてでもやるだけの価値があると信じて進むには、情熱という推進力が必要です。これは私が大学で学ぶことができた最も大切なことだと思っています。

今後も技術とビジネスをつなげることができる技術者を目指し、「やらまいか精神」でどんどん面白そうなことに挑戦していきたいです。

イベント情報

3月20日(木・祝)
令和6年度 公開シンポジウム

建築が分かると静岡がもっと楽しくなる!
～歴史的建築物から
現代建築まで、見方を学ぶ～

3月28日(金)
春休み体験研究室

毎年恒例! 小学生向けの理科教室を
大学(袋井市)で開催計画中です。

いずれのイベントも詳細は確定次第、HP等でご案内します!

編集 後記

2025年は巳年です。脱皮を繰り返すヘビのイメージからヘビは再生の象徴とされ、古くから縁起の良い動物と考えられています。そのため、巳年は再スタートや変化のチャンスに恵まれる年とされているようです。そんな巳年にあやかって(?)、キャンパスニュースをフルカラーのタブロイド判にリニューアルしました!過去のアーカイブが特集されていますが、大学ホームページで電子版が公開されています。是非、ご覧ください。ちなみに、昨年11月末に大学ホームページもリニューアルされています。(W)

静岡理科大学キャンパスニュース

令和7年1月31日発行 企画・編集・発行/静岡理科大学 大学広報委員会
〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2 TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110
https://www.sist.ac.jp E-mail:shakai@sist.ac.jp

